

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 家庭科 科目 保育基礎

教科： 家庭科 科目： 保育基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ H 組

教科担当者：（A-H組選択：森田俊

使用教科書：（ 教育図書 保育基礎 ）

教科 家庭科 の目標：

【知識及び技能】毎日の生活及び人生を送るための必要な知識・技術を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】日常生活の中の課題解決を図る能力の育成。

【学びに向かう力、人間性等】社会参加及び日常生活の向上を図ろうとする。

科目 保育基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。 ・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	・子どもを取り巻く課題を見つけ解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。	・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心を持ち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。

教育実習やコロナ禍の影響のため年間計画を変更性があります。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元「子どもと遊び」 【知識及び技能】・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通じて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】・子どもの遊びの内容や時間・場所・仲間などが、近年の社会の変化の影響を受けて変容していることを知り、どのような課題があるか考える。	・指導事項 遊びの意義、児童文化財について ・教材 絵本・紙芝居・ペープサート・パネルシアター	【知識・技能】・子どもの健やかな発達が遊びによってもたらされることを理解している。 【思考・判断・表現】・おもちゃづくりなどの活動を通して、子どもが楽しく安全に遊ぶことができるように工夫することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】・身近な地域の遊びについて関心を持ち積極的に調べようとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		2
2 学 期	B単元「子どもの発達」 【知識及び技能】・乳幼児期の発育について、各部位別の目安や評価法を知る。また、大人などと比較して、乳幼児期の発育の特性を理解する。 ・乳幼児期の生理的特徴について理解する。	・指導事項 乳幼児期の発達の特性、乳幼児の生理的特徴 ・教材 保育基礎ワークノート	【知識・技能】・乳幼児の発育や生理的特徴が大人とは大きく異なることを理解している。 ・発達の各側面における過程を理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】・月齢・年齢ごとの子どもの心身の発達の様子を理解した上で、子どもの個人差を考慮した適切なかかわり方を考察し、具体的に提案することができる。	○		○	16
	C単元「子どもの生活」 【知識及び技能】・基本的生活習慣と社会的生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。 【思考力、判断力、表現力等】・近年の幼児に関する食事習慣や健康面、安全面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているか考察する。 【学びに向かう力、人間性等】・実際に子どもとふれ合うことを通じて、子どもの保育の方法や発達について理解を深める。	・指導事項 子どもの健康と生活・子どもの食事、衣服、安全について ・教材 保育基礎ワークノート	【知識・技能】・子どもの日常生活における世話の仕方とその役割について理解している。 【思考・判断・表現】・保育施設で起こりうる事故について、子どもの発達過程や生活の特徴を踏まえながら考察し、子どもを危険から守るための具体的な方策を提案することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】・保育実習において、子どもの発達段階や生活の特徴を意識しながら、積極的に子どもとかかわろうとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		2

3 学 期	D単元「子どもの福祉」 【知識及び技能】・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】・子どもの福祉について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。	・指導事項 児童福祉の理念と法規・制度 ・教材 保育基礎ワークノート	【知識・技能】・児童福祉の理念と特徴、法律や制度、福祉にかかわる施設の役割について理解している。 【思考・判断・表現】・児童虐待や貧困など、具体的な問題を通じて子どもの福祉の必要性を考察し、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。	○	○		18
	定期考査						0
							合計
							70